

3年振りにベトナムに帰国したベトナム人博士課程学生を囲んでの研究報告会
(2023年1月16日)

日本では新年が明けたばかり、でもベトナムのお正月は旧正月なので、そのテト正月（1月22日）に向けての年末押し迫った時期にあたります。そんな中、今まで5回実施してきたハノイ医科大学とのオンラインセミナーの特別編という形で、今回はプロジェクト Output2 の PrEP（曝露前予防内服）を巡る研究に関しての内容です。テーマは、PrEP プログラムに参加して ARV（抗ウイルス薬）を飲んでいる人たちの血中に実際にどれくらい薬剤濃度が保たれているかの測定方法策定の研究進捗と、今後の研究成果のベトナムでの活用の仕方に関するものです。



ハノイ医科大学に集まり、日本と繋げてのハイブリッドセミナーもすっかり慣れてきました



3年以上振りにベトナム・ハノイへ里帰りの Hieu さん、博士課程修了まであと少し、頑張ってくださいね！

テーマにもある「薬剤血中濃度」。そもそも予防のための薬がきちんと飲まれているかは、今のところ基本的には利用者に「薬をちゃんと飲んでますか？」と聞かないとわかりません。しかしその血中濃度が測れば、より科学的にきちんと内服がされているか（アドヒアランス）がわかり、万が一予防が上手くいかずに HIV 感染が起きてしまった際にも、それが何の原因で起きているかが解明しやすくなります。そういった科学的根拠を以て、より効果的な PrEP に貢献していこうというのが今回研究の目的です。研究の途中経過とこれまでの成果発表を受けて、ハノイ医科大学の参加者からは、ベトナムにおいて測定するにはどうしたらいいか、どのような機材が必要か、など強い関心が寄せられました。今回のセミナーは、日本での研究がベトナムでも実践される良いきっかけになったと思います。

今回のメインスピーカーは、SATREPS プロジェクトが始まった 2019 年にこの研究を行うために熊本大学博士課程に入学した Hieu さんです。日本へ渡った直後、ちょうど新型コロナウイルス感染症が猛威を振り始めてしまい、なかなかベトナムへの一時帰国の機会が無く、今回 3 年以上ぶりにようやくハノイへ一時帰国を果たすことができました。その間の日本での学業は、多くの人に支えながらも、コロナ禍の行動制限の中での外国での生活ということで本当に大変だったことでしょう。短い期間ですが 3 年振りの家族とのテト正月、エネルギーをしっかりと充電して、博士課程修了に向けて頑張ってくださいね！